

花の街

教材研究

学習目標 詩や曲の背景を理解して歌おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 詩や曲の背景を理解し、そこに込められた思いを生かした歌唱表現や美しい日本の「心の歌」に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (ア)

[共通事項] 音楽を形づくっている要素：旋律、強弱
用語や記号など：フレーズ

指導と評価の計画の例 (全2時間)

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">●曲に関心をもつ。<ul style="list-style-type: none">・「花の街」(独唱)を聴く。・聴いた感想を発表し合う。●歌詞の内容や曲想に関心を持ち、「作詞者の言葉」や「作曲者の言葉」を基に、当時の時代背景を理解して歌う。<ul style="list-style-type: none">・作詞者について、教科書などを参照して知る。・縦書き詩を朗読する。・歌詞の内容(情景や心情)について考え、発表し合う。・「作詞者の言葉」を基に、当時の時代背景を理解しながら、詩に込められた思いを感じ取る。・作曲者について、教科書などを参照して知る。・学級全体で歌詞唱をする。・曲の雰囲気や曲想などについてワークシートにまとめ、発表する。・「作曲者の言葉」を読み、曲に込められた思いを理解する。 | <ul style="list-style-type: none">●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。【観察, ワークシート】*態は各時の取組を総括的に評価する。 |

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・詩や曲の背景，作詞者や作曲者の思いを理解して，1番から3番まで伴奏に合わせて歌う。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●歌詞の内容と旋律，強弱とを関連させながら，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫するとともに，歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方（呼吸法）などの技能を身に付ける。 ・当時の時代背景，作詞者や作曲者の思いを感じ取りながら通して歌う。 ・歌詞に込められた思い（歌詞の内容）が旋律の動きや強弱にどのように生かされているかを楽譜から読み取り，気付いたことをワークシートにまとめる。 ・自分の考えを基にグループで話し合い，曲にふさわしい歌唱表現について考える。 ・グループで話し合った表現の工夫を発表し，学級全体で歌い試しながら音楽をつくっていく。 ・曲にふさわしい表現で歌うために必要な姿勢，呼吸，発声，言葉の発音（特に鼻濁音）などに気を付けながら歌う。 ・これまでの学習を生かして，表情豊かに歌う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●思旋律，強弱を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察，ワークシート】 ●技創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能を身に付け，歌唱で表している。【演奏】 ●態詩や曲の背景を理解し，そこに込められた思いを生かした歌唱表現や美しい日本の「心の歌」に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】 |

早春賦

教材研究

学習目標 情景を思い浮かべながら、表情豊かに歌おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) リズム、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (ア)

[共通事項] 音楽を形づくっている要素：リズム、強弱
用語や記号など：拍子、

指導と評価の計画の例 (全2時間)

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|--|--|
| <p>●曲に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・範唱を聴き、曲の雰囲気や印象などについて気付いたことや感じたことを自由に発表し合う。・作詞者、作曲者について知る。・縦書き詩を音読して言葉の意味を理解するとともに、歌詞の表す情景や心情について考えたことをワークシートに記入し、意見交流する。・情景や心情を意識しながら、発声や言葉の発音に留意して歌う。 <p>●曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・歌ったり範唱を聴いたりして、リズム(8分の6拍子)、旋律の動き、強弱の変化などについて、気付いたことや感じ取ったことをワークシートに記入する。・ワークシートに記入したことを発表し、他者の意見でよいと思ったことをワークシートに書き加える。・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを意識しながら、学級全体で歌う。 | <p>●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p> |
| <p>●曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none">・前時の学習を振り返り、範唱を聴いて、歌詞の内容や旋律の動きと強弱との結び付きについて、気付い | <p>●思リズム、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい</p> |

たことや感じ取ったことをワークシートに記入し、発表し合う。

- ・強弱や伴奏の変化がどのような効果を生み出しているかを感じ取る。
- ・個人やグループで歌い試し、どのように歌うかについての思いや意図、表現を工夫したい点とその理由をワークシートに記入する。
- ・ワークシートに記入したことを基に発表し合い、グループや学級全体で歌い試しながら、曲にふさわしい表現について共有する。

●**創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。**

- ・曲にふさわしい音楽表現となるように、グループや学級全体で発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）などをいろいろと試し、よりよい表現を追求する。
- ・これまでの学習を生かして学級全体で歌う。
- ・学習内容を振り返り、表現を工夫して分かったことや、歌うときに大切なポイントなどをワークシートにまとめる。

歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】

●**技**創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。【演奏】

- 態**曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

Amazing Grace

教材研究

学習目標 声が響き合う美しさを味わいながら合唱しよう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色，旋律，テクスチャを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力，判断力，表現力等)
- (3) 声が響き合う美しさや，音の重なり，歌詞の内容や曲の背景に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに，合唱に親しむ。(学びに向かう力，人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア，イ (ア)，ウ (イ)

[共通事項] 音楽を形づくっている要素：音色，旋律，テクスチャ

指導と評価の計画の例 (全2時間)

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">●歌詞の内容や曲想に関心をもつ。<ul style="list-style-type: none">・主旋律のみの音源を聴き，印象や歌詞の内容などについて自由に話し合う。・歌詞を朗読し，全員で主旋律を歌う。・歌詞の内容や曲の背景を確認し，歌詞が表す心情や感じ取った曲の雰囲気についてワークシートに記入する。●合唱のよさを味わうとともに，音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。<ul style="list-style-type: none">・合唱の音源を聴き，合唱のよさを味わう。・楽譜を確認しながら，合唱としての聴かせどころや，主旋律以外のパートの音の重なりや面白さ（響きや旋律の動きの違い）に着目して再度音源を聴き，感じ取ったことや気付いたことなどをワークシートに記入する。・グループでそれぞれの意見を共有し，さらに学級全体でも，どのように歌いたいかについて意見を共有する。・共有した意見を踏まえ，各パートに分かれて歌唱に | <ul style="list-style-type: none">●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。【観察，ワークシート】●思音色，旋律，テクスチャを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察，ワークシート】 <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>取り組み、気付いたことなどを楽譜やワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員で合唱し、気付いたことや課題について共有する。 ・どのように歌いたいことや表現の工夫についてワークシートに整理し、次時の課題を確認する。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。 ・前時の学習を振り返り、課題を確認する。 ・歌詞を朗読し、自分たちで考えた表現の工夫について再確認する。 ・パートごとに表現の工夫を想起しながら、発声、言葉の発音、身体の使い方などにも目を向け、歌唱に取り組む。 ・グループや学級全体で合唱し、パートごとの課題や、自分たちの思いや意図がどう表現されているか、何が足りないかなどの課題を見つける。 ・発声や言葉の発音、身体の使い方、旋律の重なりやそのバランスを意識するなどして、いろいろと歌い試す。 ・どのように歌うかについての思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったり、より深まったりしたところがある場合は、ワークシートに加筆修正する。 ・思いや意図と、それを表現するために必要な発声や身体の使い方などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で合唱する。 ・学習の振り返りを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●【技】創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏】 ●【態】声が響き合う美しさや、音の重なり、歌詞の内容や曲の背景に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】 |

帰れソレントへ

教材研究

学習目標 曲想を生かして表情豊かに歌おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 歌詞が表す情景や心情及び同主調の表情や味わいに関心をもち、カンツォーネの情熱的で表情豊かな歌唱表現を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (ア)

[共通事項] 音楽を形づくっている要素：速度、旋律、強弱

用語や記号など：調, *rit.*, *a tempo*, フェルマータ

指導と評価の計画の例 (全3時間)

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|--|--|
| <p>●歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・範唱を聴いて、印象などを自由に話し合う。・イタリア語の歌詞を音読したり歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気など感じ取ったことをワークシートに書く。・日本語の歌詞の内容や曲の背景について確認し、気付いたことなどをワークシートに書く。・書いたことを学級全体で発表し合い、他者の意見でよいと思ったことをワークシートに書き加える。 <p>●音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none">・歌ったり聴いたりして、速度 (<i>rit.</i>, <i>a tempo</i>)、旋律 (同主調、フレーズ、音の高さ)、強弱を知覚・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。・知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽の特徴と歌詞の内容や曲の背景とを関わらせて歌う。 | <p>●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p> |
| <p>●知覚したことと感受したこととの関わりについて考</p> | <p>●思速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み</p> |

| | |
|---|---|
| <p>え、どのように歌うかについての思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調や速度、強弱の変化による効果を感じ取りながら歌い、曲にふさわしい表現の工夫について考える。 ・知覚したことと感受したこととの関わりについて考えたことを基に、同主調による旋律の雰囲気の違いや速度、音のつながり、フレーズ、強弱などを意識し、様々に歌い試しながら、曲にふさわしい音楽表現についてグループで考える。 ・どのように歌うかについての自分の思いや意図をワークシートの楽譜に書き込み、表現を工夫するポイントを理由も含めてワークシートに書く。 ・ワークシートに書いたことをグループや学級全体で発表し合い、歌い試しながら、曲にふさわしい音楽表現を追求する。 | <p>出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】</p> |
| <p>●創意工夫を生かした表現をするための歌い方を追求する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時で取り組んだ表現の工夫を思い出し、速度、旋律、強弱などの特徴を捉えながら、創意工夫を生かして歌う。 ・どのように歌うかについての自分の考えや、表現を工夫するポイントをグループや学級全体に発表し、話し合う。 ・どのように歌うかについての思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったり、より具体的になったりしたところがある場合は、ワークシートに加筆修正する。 ・思いや意図と、発声、言葉の発音、身体の使い方（呼吸法）などの技能との関係を意識しながら、グループや学級全体で歌う。 ・学習全体を振り返り、歌詞の内容、曲想、音楽の構造などに触れながら、学んだことをワークシートにまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●技創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏】 ●態歌詞が表す情景や心情及び同主調の表情や味わいに関心をもち、カンツォーネの情熱的で表情豊かな歌唱表現を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】 |

きみとともに

教材研究

学習目標 歌詞と旋律の関わりに注目して合唱しよう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 言葉の抑揚と旋律の動きとの関わりや、混声三部合唱の音色や音の重なり方に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (ア), ウ (イ)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：音色、旋律、テクスチャ

指導と評価の計画の例 (全2時間)

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">●歌詞と旋律の関わりに関心をもつ。<ul style="list-style-type: none">・範唱を聴く。・どのようなメッセージが込められた歌詞であるのか、また曲からどのような印象を受けたのかを個人で考えたあと、グループで自由に話し合う。●曲想と音楽の構造 (全体の響き、言葉の抑揚と旋律の動きとの関わり、音の重なりなど) や歌詞の内容との関わりについて理解する。<ul style="list-style-type: none">・楽譜を見ながら、範唱とともに旋律を繰り返し歌う。・楽譜の旋律を指でなぞったり、線で結んだりしながら歌う。・グループで群読し、言葉の抑揚をワークシートに線で書く。・言葉の抑揚と旋律の関わりで気付いたことをワークシートに記入し、学級全体で話し合う。・歌いながら、音色 (全体の響き)、旋律 (言葉の抑揚との関わり)、テクスチャ (女声のみ、男声のみ、混声三部合唱、伴奏の響き) を知覚・感受し、捉えた音楽の特徴をワークシートに書く。・知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて意見交換する。・音楽の特徴と歌詞の内容との関わりを意識して歌う。 | <ul style="list-style-type: none">●知曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】 |

| | |
|---|---|
| <p>●音色，旋律，テクスチャを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指でなぞったり，線で結んだりした旋律の動きの線と言葉の抑揚の線を比較し，歌詞が表す心情と旋律の関わりから，どのように表現を工夫するとよいかをワークシートに記入する。 言葉の抑揚と旋律の関わりを意識しながら，曲にふさわしい表現を工夫して全員で旋律を歌う。 | <p>●思音色，旋律，テクスチャを知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察，ワークシート】</p> <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p> |
| <p>●創意工夫を生かし，全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け，歌唱で表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各パートに分かれて歌唱に取り組む。 伴奏に合わせてパートごとに歌う。 伴奏の形の変化とその雰囲気の違いについて考え，ワークシートに記入し発表する。 パートごとに，この曲におけるパートの役割と全体との関わりから，合唱にふさわしい声の音色を考える。 各自が感じ取ったことをパート内で共有し，それらを基にどのように歌ったらよいか話し合いながら，様々な表現を試す。 各パートの代表が自分たちの歌唱表現の工夫を学級全体に伝える。 互いの表現に関心をもち，全体の響きを感じながら他者と合わせ，自分のパートの役割を生かして合唱する。 自分たちの演奏を録画したものを視聴し，言葉の抑揚と旋律の動きとの関わりを意識しながら，曲にふさわしい創意工夫を生かして合唱しているかについて振り返りを行い，学級全体で共有する。 | <p>●技創意工夫を生かし，全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け，歌唱で表している。【演奏】</p> <p>●態言葉の抑揚と旋律の動きとの関わりや，混声三部合唱の音色や音の重なり方に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】</p> |

Let It Be

教材研究

学習目標 曲の雰囲気を生かして英語の歌を歌おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 英語の語感を生かした旋律やリズムの働きが生み出す曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (イ), ウ (ア)

[共通事項] 音楽を形づくっている要素: リズム, 旋律

指導と評価の計画の例 (全2時間)

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">●ビートルズや曲に関心をもつ。<ul style="list-style-type: none">・ビートルズや曲について知っていることを発表し合う。●曲を聴き、曲種に応じた発声や英語の語感に関心をもつ。<ul style="list-style-type: none">・音源を聴き曲の雰囲気を味わうとともに、英語の語感を生かした表現の仕方やポピュラー音楽の特徴を捉える。・歌詞を音読したり訳詞を読んだりして、歌詞の内容について理解したことや感じ取ったことを意見交換する。●声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解する。<ul style="list-style-type: none">・ペアやグループになり、発音に注意しながら旋律の音取りを行う。・自分たちの歌を録音して範唱や原曲と聴き比べ、気付いたことを楽譜に記入し話し合う。・楽譜を見たり歌ったりしながら、声の音色や言葉の発音、歌い方の特徴について気付いたことや感じ取ったことをワークシートにまとめ、学級全体に発表する。・理解したことを踏まえ、学級全体で歌う。 | <ul style="list-style-type: none">●知声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。【観察, ワークシート】*態は各時の取組を総括的に評価する。 |

●リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲にふさわしい歌唱表現を工夫する。

- ・範唱や原曲などの音源を聴き、前時に捉えた声の音色や言葉の発音、歌い方の特徴に留意しながらまねて歌う。
- ・フレーズごとなど部分的に取り上げて、それぞれの部分にふさわしい表現の工夫について、グループや学級全体で意見交換しながら歌い試す。
- ・繰り返し歌われる「Let it be」の部分のリズムや音の高低に注目し、どのような歌い方がふさわしいか考え、グループで話し合う。

●創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌う。

- ・これまでの学習を踏まえ、よりよい表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などをグループや学級全体で歌い試す。
- ・英語の語感と曲の雰囲気を生かして、学級全体で歌う。
- ・英語の歌を歌うときの表現の工夫やポイントなどについてグループや学級全体で発表し合い、ワークシートにまとめて学習の振り返りをする。

●**思**リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】

●**技**創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏】

●**態**英語の語感を生かした旋律やリズムの働きが生み出す曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

My Melody

教材研究

学習目標 ハ長調の音階を使ってまとまりのある旋律をつくろう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音階の特徴及び音のつながり方の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 和音の動きと旋律との関係や、音階の特徴及び音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (3) 創作 ア, イ (ア), ウ

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：リズム、旋律、構成

指導と評価の計画の例（全2時間）

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|---|--|
| <p>●和音の動き（コード進行）や、和音の動きと旋律との関わりに関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・カノン進行でつくられた曲を聴く。・聴いた曲が全て同じ和音の動きからできていることを知る。・同じ和音の動きでもいろいろな旋律が付けられ、またそれによって曲の雰囲気に違いが生まれることを知る。・雰囲気の違いがどこから生まれるのか、学級全体で意見交換する。 <p>●「もとの旋律」づくりをする。</p> <ul style="list-style-type: none">・教科書p.30の和音と低音を繰り返し聴いて、和音の響きの移り変わりを感じ取る。・キーボードやリコーダーなどで演奏しいろいろと試しながら、教科書p.30の例のように、和音に含まれる音の中から1つずつ選んでつくった「もとの旋律」をワークシート <input type="checkbox"/> に記入していく。・つくった「もとの旋律」をワークシート <input type="checkbox"/> に記入する。 <p>●教科書p.30の②の「つくり方」を参考に、音のつながり方を工夫しながら、「もとの旋律」のリズムや音</p> | <p>● <input type="checkbox"/> 音階の特徴及び音のつながり方の特徴について、</p> |

| | |
|---|--|
| <p>を変えて、まとまりのある旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作する際の課題を確認する。 ・2分音符だけの「もとの旋律」のリズムを変えてみる。 ・和音に含まれる別の音を使う。 ・和音に含まれない音を使う。 ・まとまりのある旋律にするために反復や変化を考える。 ・グループ内で途中経過を発表し、自分の思いや意図が伝わる旋律になっているか話し合う。 | <p>表したいイメージと関わらせて理解している。【観察、ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●思リズム、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】 *態は各時の取組を総括的に評価する。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●教科書p.31の③の2種類の伴奏を聴いて、好きなほうを選び、自分のつくった旋律をその伴奏の雰囲気合うように変える。 ・2種類の伴奏を聴いて、それらの雰囲気の違いを感じ取る。 ・つくった旋律を、2種類の伴奏それぞれに合わせて演奏してみる。 ・それぞれの伴奏と合わせたときに生み出されるイメージを比較する。 ・自分のイメージに近い伴奏を選び、さらにイメージを膨らませて旋律を変える。 ・同じ伴奏を選んだ生徒どうして聴き合い、意見交換する。 ・意見交換したことを参考に旋律を完成させ、選んだ伴奏、工夫した点とともにワークシートに記入する。 ●学級全体で発表する。 ・モニターなどに映した楽譜や工夫した点を見ながら、指導者や生徒自身による演奏を聴き、他者の作品で気付いたことや感じたことをワークシートに記入する。 ・自分の作品について、自己評価をする。 ・学習の振り返りをワークシートに記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●技創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。【ワークシート】 ●態和音の動きと旋律との関係や、音階の特徴及び音のつながり方の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】 |

Let's Create !

教材研究

学習目標 音の特徴や重なりを感じてリズムアンサンブルをつくろう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復，変化，対照などの構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解するとともに，創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な，課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色，リズム，速度，テクスチャ，強弱，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，まとまりのある創作表現を創意工夫する。(思考力，判断力，表現力等)
- (3) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復，変化，対照などの構成上の特徴に関心を持ち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。(学びに向かう力，人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (3) 創作 ア，イ (イ)，ウ

【共通事項】音楽を形づくっている要素：音色，リズム，速度，テクスチャ，強弱，構成

指導と評価の計画の例 (全2時間)

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|--|---|
| <p>●音素材の特徴及び音の重なり方や反復，変化，対照などの構成上の特徴に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・音素材の特徴を感じ取る (Warming up 1)。・2人一組みになって，それぞれのリズムの重なり方にふさわしい音の出し方を見つける (Warming up 2)。 <p>●音素材の特徴及び音の重なり方や反復，変化，対照などの構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解するとともに，音色，リズム，速度，テクスチャ，強弱，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，まとまりのある創作表現を創意工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none">・4分の4拍子で1小節のリズムを2つ作り，ワークシートのアに記入する (①)。・2人一組みになって，①でつくったリズムを基に4分の4拍子で8小節のリズムアンサンブルをつくり，ワークシートのイに記入する (②)。・音色やリズムの特徴を生かした表現になるよう，速度や強弱についても創意工夫する。 | <p>●知音素材の特徴及び音の重なり方や反復，変化，対照などの構成上の特徴について，表したいイメージと関わらせて理解している。【観察，ワークシート】</p> <p>●思音色，リズム，速度，テクスチャ，強弱，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，まとまりのある創作表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察，ワークシート】</p> <p>* 態は各時の取組を総括的に評価する。</p> |

●創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。

- ・互いに作品を発表し合い、それぞれの作品について意見交換し、さらに表現を工夫する (③)。
- ・学級全体で発表を行い、活動の振り返りをワークシートに記入する (④)。

●**技**創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、創作で表している。【ワークシート】

●**態**音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】

ブルタバ（モルダウ）

教材研究

学習目標 作曲者の思いを感じ取りながら、音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞 (1) 鑑賞 ア (イ), イ (イ)

[共通事項] 音楽を形づくっている要素：音色、速度、旋律、強弱
用語や記号など：拍子、調

指導と評価の計画の例（全2時間）

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|---|---------------------------|
| <p>●曲に関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none">・Aの部分を読み、想像した情景を述べ合う。・[ブルタバを表す旋律]の部分楽器の音色に着目して聴いて、オーケストラで演奏されていることを知り、各楽器を確認する。・教科書を参照し、作曲家自身によるA～Gの標題があることを知る。 <p>●標題（場面や情景）のイメージと音色（楽器の音色）、速度（場面ごとの速度の変化）、旋律（ブルタバを表す旋律、長調、短調）、強弱（強弱の変化、強弱の対比）との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・B～E, Gの5つのグループに分かれて担当する部分を読み、それぞれの部分の標題がどのように表現されているのかについて、聴き取ったことや感じ取ったことをワークシートに記入する。・ワークシートに記入したことを基にグループ内で意見交流する。・グループ内で意見交流したことを学級全体に発表して共有する。・各グループの発表を参考に、標題とそれぞれの場面の曲想の変化に着目して、全曲を通して鑑賞する。 | <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p> |

●音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。

- ・教科書p.34の「楽曲について」や『ブルタバ』が作曲された当時のヨーロッパの地図、「作曲者自身による解説」を読み、曲の背景となる文化や歴史について知る。
- ・Aの「ブルタバを表す旋律」とBの「幅広く流れるブルタバ」の旋律を比較聴取し、聴き取ったことや感じ取ったことをワークシートに記入する。
- ・Aの「ブルタバを表す旋律」とBの「幅広く流れるブルタバ」の調（短調と長調）や速度の違いを感じ取り、それによって生み出される雰囲気の違いについてワークシートに記入する。

●音色、速度、旋律、強弱を知覚・感受しながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

- ・作曲者がブルタバ川の様子や川の周辺の情景を標題に沿って音楽で細かく描写していることや、「ブルタバを表す旋律」が短調から長調に変化している理由について、聴き取ったことや感じ取ったことを基に、自分の考えをワークシートに記入する。
- ・ワークシートに記入したことを基に意見交流する。
- ・「ブルタバ（モルダウ）」を全曲通して聴き、意見交流したことを参考にしながら、生活や社会における音楽の意味や役割について考えたことを批評文にまとめる。
- ・批評文を発表し合い、音楽のよさや美しさについて学級全体で共有する。

●知音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】

●思音色、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。

【観察、ワークシート】

●態音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

【観察、ワークシート】

尺八楽「巢鶴鈴慕」

教材研究

学習目標 日本に古くから伝わる尺八の音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 我が国の伝統音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。(知識)
- (2) 音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 尺八の音色や様々な奏法による音色の変化、旋律の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、和楽器（尺八）や我が国の伝統音楽に親しもうとする態度を育む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞 (1) 鑑賞 ア(ウ), イ(ウ)

[共通事項] 音楽を形づくっている要素：音色、旋律
用語や記号など：間

指導と評価の計画の例（全2時間）

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|---|--|
| <p>●尺八の音色や奏法による音色の変化に関心をもち、尺八楽についての関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none">・尺八の音色や奏法による音色の変化に着目して「巢鶴鈴慕」の「初段」を聴き、気付いたことや感じ取ったことをグループで話し合う。・尺八楽について知る。 <p>●尺八の音色や様々な奏法による音色の変化、旋律の特徴を、リコーダーと比較しながら知覚・感受し、尺八の音色や旋律について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・「巢鶴鈴慕」で使用される尺八の様々な奏法（スリ上げ、コロコロ、タマネ、メリ、カリなど）について確認し、リコーダーで試奏して、尺八固有の音色や音色の変化について気付いたことをグループで話し合い、ワークシートに記入する。・グループで意見交換したあと学級全体に発表し、尺八の音色や様々な奏法による音色の変化について理解を深める。・尺八の基本となる音と音域について知る。・「初段」とリコーダー曲を比較聴取して、尺八の音色や様々な奏法による音色の変化、旋律の特徴について気付いたことをグループで話し合い、ワークシ | <p>●知我が国の伝統音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>トに記入する。</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●音色，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，音楽表現の共通性や固有性について考え，音楽のよさや美しさを味わって鑑賞する。 ・「巢鶴鈴慕」が，鶴の親子の情愛と別れを表した曲であることを知る。 ・前時に学習した尺八の音色や様々な奏法による音色の変化，旋律の特徴を踏まえて「巢鶴鈴慕」を通して聴き，どのような情景をイメージしたかについてワークシートに記入する。 ・尺八の固有性及びそのよさや美しさについて，自分の考えをワークシートに記入してグループや学級全体で発表し合い，他者の意見でよいと思ったことを書き加える。 ・「巢鶴鈴慕」を通して聴き，学習したことを生かして尺八の魅力や面白さについて考え，ワークシートにまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●思音色，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，音楽表現の共通性や固有性について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【観察，ワークシート】 ●態尺八の音色や様々な奏法による音色の変化，旋律の特徴に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】 |

能「敦盛」

教材研究

学習目標 能に親しみ、その音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 謡や囃子の音色やリズム、速度の変化、演者の所作や舞、歴史的背景などに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、我が国の伝統音楽に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞 (1) 鑑賞 ア (ウ), イ (イ)

[共通事項] 音楽を形づくっている要素：音色、リズム、速度、旋律

指導と評価の計画の例 (全2時間)

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|--|----------------------------------|
| <p>●能への関心を高める。</p> <ul style="list-style-type: none">・能の写真や演目の一場面を視聴し、知っていることや気付いたことなどを自由に発言する。・能について教科書で確認するとともに、学びの見通しやその意義にも触れる。 <p>●能の成り立ちや演者及び演奏者の役割、表現方法、音楽、舞台などの特徴について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・教科書や映像資料の視聴などを通して、能の成り立ちや演者及び演奏者の役割、特有の表現方法、音楽、舞台の工夫などについてワークシートにまとめる。 <p>●謡の「コトバ」と「フシ (ツヨ吟, ヨワ吟)」それぞれの音色やリズム、速度、旋律などの違いや特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none">・音色、リズム、速度、旋律に着目して鑑賞し、気付いたことをワークシートにまとめ、発表する。・いろいろな謡い方が用いられていることを知る。・「コトバ」「ツヨ吟」「ヨワ吟」を鑑賞し、それぞれの特徴や雰囲気などについて気付いたことをワークシートにまとめ、それぞれがどの謡い方なのかを考える。・グループで気付いたことや考えたことについて意見 | <p>*態は各時の取組を総括的に評価する。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ部分を再度鑑賞し、どの謡なのかを確認する。 ・それぞれの謡の特徴を発表し、学級全体で共有する。 <p>●「敦盛」のあらすじや場面ごとの工夫（謡の違い、前シテ、後シテ、中之舞）について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の振り返りを行う。 | |
| <p>●能特有の表現などに関心を持ち、音色、リズム、速度、旋律を知覚・感受しながら、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りと確認をする。 ・「中之舞」の一部を鑑賞し、舞や四拍子について知る。 ・感想や気付いたことを発表する。 ・能「敦盛」を鑑賞する。 ・前時のワークシートを活用し、「能の特徴」や「謡い方の違いや場面との結び付き」についてまとめる。 ・「能のこういったところに固有性やよさがあると思うか」「外国人にアピールできる部分」についての紹介文を発表し合い、学級全体で意見を共有する。 <p>●この学習を通して身に付いた力についての振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今後の自分の生活との関わり（何ができるか）」「なぜ海外から高い評価を受けると思うか」について考えたことをワークシートに記入する。 | <p>●知音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>●思音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【観察、ワークシート】</p> <p>●態謡や囃子の音色やリズム、速度の変化、演者の所作や舞、歴史的背景などに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】</p> |

謡「敦盛」から

教材研究

学習目標 声や音楽の特徴を生かして謡を謡おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 謡の声の音色や響き、リズムや速度の変化、生み字（産み字）やコミといった曲種の特性に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国の伝統音楽に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現 (1) 歌唱 ア, イ (イ), ウ (ア)

【共通事項】音楽を形づくっている要素：音色、リズム、速度、旋律

指導と評価の計画の例（全2時間）

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|--|---|
| <p>●謡の特徴を感じ取り、言葉として確認する。</p> <ul style="list-style-type: none">・これまでに学習した我が国の伝統的な歌唱の学習活動について振り返る。・これから歌唱する謡の場面を鑑賞し、振り返りで出た意見と一致している点や相違点、気付いたことなどを自由に発言する。・本題材では、能の謡の特徴を理解し、創意工夫して歌うことを確認する。・能の特徴を捉えるとともに、学びの見通しやその意義についても確認する。 <p>●謡の声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none">・「敦盛」のあらすじを知り、詞章を音読して内容を理解する。・模範演奏をまねて歌ったり、指導用CDを聴いたりして、謡（ツヨ吟）の声の音色や響き、言葉の発音の仕方、歌い方の特徴、リズムや旋律の特徴について | <p>●<u>知</u>声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>*<u>態</u>は各時の取組を総括的に評価する。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>気付いたことをワークシートに記入し、意見交換する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に歌いにくかった部分や気付いたことを楽譜に記入する。 ・教科書p.48「演奏者からのアドバイス」を参考にし、謡の特徴を理解する。 ・理解したことを基に、再度歌う。 ・声の音色や言葉の発音、歌い方の特徴、身体の使い方について、歌ってみた体験と合わせてワークシートにまとめる。 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ●音色、リズム、速度、旋律を知覚・感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、謡にふさわしい歌唱表現として、どのように表すかについて思いや意図をもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返りと確認をする。 ・詞章を朗読し、その意味や場面を再度確認する。 ・全員で範唱に合わせて歌う。 ・声の音色、速度やリズムの変化、生み字、コミについて、各自ワークシートの絵譜に記入してグループで意見交換しながら、曲にふさわしい歌唱表現として、どのように表すかについて思いや意図をもつ。 ●創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けて歌う。 <ul style="list-style-type: none"> ・グループで範唱を聴いて歌う。 ・謡の表現をするために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などについてグループで追求する。 ・地頭の位置を確認し、発表の隊形についても考えながら歌う。 ・グループごとに演奏を発表し、それぞれの演奏について意見を述べ合う。 ・演奏したり発表を聴いたりしたことについて振り返りを行う。 ●学習を通して身に付いた力や、表現することで感じ取った我が国の伝統的な歌唱や伝統文化の固有性やよさ、学習の意味について考え、学習の価値付けを行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・既習の歌唱と謡を比較しながら、謡の魅力や面白さについて気付いたことや理解したことを振り返り、自分の考えをまとめる。 | <ul style="list-style-type: none"> ●思音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きの生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。【観察、ワークシート】 ●技創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。【演奏】 ●態謡の声の音色や響き、リズムや速度の変化、生み字（産み字）やコミといった曲種の特性に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】 |

世界の諸民族の音楽

教材研究

学習目標 世界のさまざまな楽器の音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。(知識)
- (2) 音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 世界の諸民族の音楽の特徴と音楽の多様性に触れ、我が国の音楽や音楽表現との比較を通して共通性や固有性について考える学習に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞 (1) 鑑賞 ア(ウ)、イ(ウ)

〔共通事項〕音楽を形づくっている要素：音色、リズム、旋律

指導と評価の計画の例 (全2時間)

| ●学習内容 ・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">●日本の楽器と世界各地の楽器の写真を見比べて、共通点や相違点を見つける。<ul style="list-style-type: none">・それぞれの写真の共通点や相違点について考え、グループや学級全体で意見交換する。●映像を視聴して楽器の音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。<ul style="list-style-type: none">・グループごとに日本と世界の諸民族の楽器及びその音楽を比較鑑賞し、聴き取ったことや感じ取ったことをワークシートに書く。・捉えた特質や雰囲気を基に、共通点や相違点について考え、グループで話し合いワークシートに書く。・グループでまとめたことを学級全体に発表して共有し、日本と世界の諸民族の楽器及びその音楽の特徴を捉える。●我が国や郷土の伝統音楽及び世界の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる多様性について理解する。<ul style="list-style-type: none">・学級全体で共有したことを踏まえて、全員で比較鑑 | <ul style="list-style-type: none">●思①音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 【観察、ワークシート】 |

| | |
|--|---|
| <p>賞し、聴き取ったことと感じ取ったことをワークシートに書き加える。また、知覚・感受したことを基に、それぞれの音楽の特徴とその特徴から生まれる多様性について考え、ワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を発表し合い、再度鑑賞しながら互いの意見を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●【知】我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。【観察，ワークシート】 *【態】は各時の取組を総括的に見取る。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ●音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 ・前時の学習を振り返りながらそれぞれの音楽を聴き、共通点や相違点、音楽の多様性について確認する。 ・学習活動を通して、世界の諸民族の音楽のそれぞれの音楽表現の共通性や固有性、よさや美しさについて考えたことをワークシートに書く。 ・自分の考えをグループや学級全体に発表し、意見交換する。 ・これまでの学習を踏まえ、まとめの鑑賞をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●【思②】音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【観察，ワークシート】 ●【態】世界の諸民族の音楽の特徴と音楽の多様性に触れ、我が国の音楽や音楽表現との比較を通して共通性や固有性について考える学習に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】 |

ポピュラー音楽

教材研究

学習目標 ポピュラー音楽を聴いて、そのよさを味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) ポピュラー音楽のリズムや音色、旋律、音の重なりなどに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞 (1) 鑑賞 ア(イ)、イ(イ)

【共通事項】音楽を形づくっている要素：音色、リズム、旋律、テクスチャ

指導と評価の計画の例 (全2時間)

| ●学習内容・学習活動 | ●評価規準【評価方法】 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">●ポピュラー音楽に関心をもつ。<ul style="list-style-type: none">・ポピュラー音楽について知っていることを述べ合う。●音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考える。<ul style="list-style-type: none">・ロック、ジャズ、ボサノヴァの一部分を聴き、それぞれの音楽について気付いたことや感じ取ったことをワークシートに記入し発表する。●ロック、ジャズ、ボサノヴァの音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。<ul style="list-style-type: none">・ジャンルごと(ロック、ジャズ、ボサノヴァ)のグループに分かれてそれぞれの音楽を聴き、音楽の特徴や、その背景となる文化や歴史について調べ、グループで意見交換しながらワークシートにまとめる。・グループごとにまとめたことを発表し、音源で確認して学級全体で共有する。・音源を聴きながら、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて考え、ワークシートにまとめる。 | <p>【知】音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解している。【観察、ワークシート】</p> <p>*【態】は各時の取組を総括的に評価する。</p> |

●ポピュラー音楽が自分たちの生活や社会においてどのような意味や役割をもっているのかを考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

- ・前時の学習の振り返りをする。
- ・前時で扱った3曲を鑑賞し、なぜ一般の人々に親しまれる曲となったのかについて考え、グループで意見交換する。
- ・生活や社会の中で、ポピュラー音楽がどのような意味や役割をもっているのかを考え、ワークシートに記入する。
- ・自分の考えをグループで共有したあと学級全体で発表し合い、他者の意見でよいと思ったことや新たに気付いたことなどをワークシートに書き加える。
- ・ワークシートを見ながらまとめの鑑賞をし、学習を振り返る。

●**思**音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【観察、ワークシート】

●**態**ポピュラー音楽のリズムや音色、旋律、音の重なりなどに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【観察、ワークシート】助言する。

学習指導案例

1. 題材名

情景を思い浮かべながら、言葉を大切に合唱しよう（歌唱）

本事例は、共通教材の「花」を教材とした歌唱の題材である。学習指導要領の内容は、「A表現」（1）歌唱の事項ア、イ（ア）、ウ（イ）、〔共通事項〕（1）アの音楽を形づくっている要素のうち、リズム、テクスチャ、強弱、〔共通事項〕（1）イの用語や記号などのうち、拍子を扱う。

2. 学習指導要領の指導事項

- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。
- イ（ア）曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解すること。
- ウ（イ）創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けること。

3. 題材の目標

「花」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、「花」にふさわしい歌唱表現を創意工夫しながら合わせて歌い、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。

4. 教材について

「花」 武島羽衣 作詞／滝 廉太郎 作曲

明治33（1900）年に出版された。「花」は組歌「四季」の第1曲であり、第2曲が「納涼」、第3曲が「月」、第4曲が「雪」となっている。本教材は、春の隅田川の情景を優美に表した曲で、この歌唱教材による学びは、我が国の自然や四季の美しさを感じ取り、そのイメージを膨らませることにつながる。

本題材では、二部合唱の曲に4人一組みで取り組む（男女2名ずつで上声部はソプラノとテノール、下声部はアルトとバス。生徒や学校の実態に応じて2人一組みの二重唱や、二部合唱で取り組むことも考えられる）。リズム（拍子）、テクスチャ、強弱を知覚・感受し、曲にふさわしい歌唱表現の創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けさせたい。

5. 題材の評価規準

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------|--|---|--|
| 題材の評価規準 | ①「花」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解している。（知識） ②創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者 | 「花」のリズム、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きの生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「花」にふさわ | 「花」の歌詞が表す情景や心情、曲の背景及び曲の表情や味わいに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的 |

| | | | |
|----|------------------------------|-----------------------------------|----------------------|
| | と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。(技能) | しい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。 | に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 |
| 1時 | ○ (知識) 〈観察, ワークシート〉 | | ↓ |
| 2時 | ○ (技能) 〈演奏 (歌唱)〉 | ○ 〈観察, ワークシート〉 | ○ 〈観察, ワークシート〉 |

6. 指導と評価の計画 (全2時間)

※評価規準は省略

| 時 | ◆ねらい ●学習内容 ・学習活動 | ○指導上の留意点 |
|---|--|--|
| 1 | <p>◆「花」の歌詞が表す情景や心情、曲の背景に関心をもち、リズム (拍子)、テクスチュア、強弱などの特徴を捉えながら、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解する。</p> <p>●本題材の見直しをもつ。 ・これまでに学習した共通教材について振り返り、共通教材を学習する意味を考える。 ・本題材では、「花」の二部合唱に挑戦することを知る。</p> <p>●「花」の歌詞の内容や曲想に関心をもち、音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じる。 ・「花」を聴いて、印象などを自由に話し合う。 ・「花」の歌詞を音読したり歌ったりして、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などをワークシート1①に書く。 ・「花」を歌ったり聴いたりして、リズム、テクスチュア、強弱などから、知覚・感受したことをワークシート1②③に書く。 ・書いたことを基にして学級全体で発表し合い、他の生徒の意見でよいと思ったことや気付いたことをワークシートに書き加える。 ●「花」について知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞の内容とを関わら</p> | <p>○共通教材を学ぶ意義について、これまでに学習してきたことと関連付けて考えさせる。我が国で長く歌われ親しまれている歌曲を歌唱教材として用いることが、世代を超えて生活の中の様々な場面で音楽を楽しんだり、共有したりする態度の涵養につながることを (例えばこれまでに学習した共通教材を例に出しながら) 確認させる。</p> <p>○「花」を聴いた第一印象について、自由に意見交換するよう促す。</p> <p>○1～3番の歌詞を音読したり、ソプラノ (テノール) の声部を歌ったりしながら、歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気などをワークシートに記入させる。</p> <p>○全員でソプラノ (テノール) とアルト (バス) の声部を歌ったり、2つの声部を合わせて歌ったり聴いたりしながら、ワークシートに記入させる。</p> <p>○学級全体で発表し合ったことについて、必要に応じて実際に歌ったり聴いたりしながら確認させる。</p> |

| | | |
|---|---|--|
| | <p>せて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書いた「音楽を形づくっている要素」と「感じ取ったこと」を線で結び、「どのように合わせて歌うか」についてワークシート1④に書く。 ・曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを意識して、「花」を二部合唱で歌う。 | <ul style="list-style-type: none"> ○歌いながら考えたことや気付いたことについて、適宜ワークシートに追記したり、修正したりするよう促す。 ○歌いながら、「感じ取ったこと」と「音楽を形づくっている要素」や「歌詞の内容」との関わりを意識させ、必要に応じてワークシートの記述を線で結ばせる。 |
| 2 | <p>◆「花」にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う。</p> <p>●「花」にふさわしい歌唱表現を追求し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習したことを基に、4人一組み(男女2名ずつで上声部はソプラノとテノール、下声部はアルトとバス)のグループで、拍子の感じ方、テクスチュアの生かし方、強弱などを変えて様々に歌い試しながら、「花」の3番を中心にふさわしい音楽表現について考える。 ・どのように合わせて歌うかについて、思いや意図をワークシート2の楽譜に書き込み、特に表現を工夫するポイント(理由も含む)をワークシート3に書く。 <p>●思いや意図をもって「花」を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで歌いながら、どのように合わせて歌うかについての思いや意図を再確認するとともに、考えが変わったり具体的に なったりしたところがある場合は、ワークシートに、適宜、加筆修正する。 ・思いや意図と、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能との関係を意識して歌う。 ・グループごとに演奏を発表し合い、お互いの演奏に対して気付いたことをワークシート4に記入し、意見を述べ合う。 <p>●本題材の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材を通して学んだことをワークシート5に記入する。 <p>〈本題材における発展例〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「花」が明治33(1900)年に出版された作品であるということを知り、昨年度に学習した「勸進帳」の初演から60年しか経っていないことを踏まえ、曲想や歌い方が大きく異なる2曲を比較して当時の日本の社会情勢について考える。 | <ul style="list-style-type: none"> ○4分の2拍子だけでなく8分の4拍子で指揮をしながら歌い試し、拍子の特徴を感じ取ることができるようにする。 ○声部の特徴を生かしながらどのような音色や音量で、どのように合わせて歌えばよいかについて考えるよう促す。 ○ワークシート2の楽譜に思いや意図を記入し、特にこだわって表現を工夫するポイントについては、ワークシート3に具体的に書かせる。 ○ワークシート2, 3に書き込んだ内容について、自分たちの思いや意図と音楽表現との関係性を確認しながら進められるよう配慮する。その過程で思いや意図が変わってもよいことを伝える。 ○音楽科における協働的な視点をもたせ、他者と合わせて歌うよさや必要性を感じながら技能を身に付けられるようにする。 ○他者の演奏を聴き、それぞれのグループの音楽表現のよさについて考えさせる。 ○本題材を通して学んだことを振り返り、共通教材を扱う意味や次の歌唱の題材へとつなげる視点についても考えながらワークシートに記入するよう促す。 ○それぞれの教材のよさや魅力を味わいながら、生活や社会において音楽が果たしている役割を、生徒が実感を伴って理解し、感じ取ることができるようにする。 |

学習指導案例

1. 題材名

音楽の特徴と他の芸術との関わりを理解し、オーケストラの響きを味わおう（鑑賞）

本事例は、ラヴェル作曲「ボレロ」を教材とした鑑賞の題材である。学習指導要領の内容は、「B鑑賞」(1) 鑑賞の事項ア（ア）、イ（ア）（イ）、〔共通事項〕(1) アの音楽を形づくっている要素のうち、音色、リズム、旋律、強弱、構成を扱う。

2. 学習指導要領の指導事項

ア（ア）曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

イ（ア）曲想と音楽の構造との関わりについて理解すること。

（イ）音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解すること。

3. 題材の目標

「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴と他の芸術との関わりを理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。

（参考：資質・能力別の目標とする場合）

- (1) 「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴と他の芸術との関わりを理解する。（知識）
- (2) 「ボレロ」の音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 「ボレロ」の繰り返し演奏されるリズムと2つの旋律、音色や強弱の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。（学びに向かう力、人間性等）

4. 教材について

「ボレロ」 ラヴェル 作曲

1928年にバレエのための曲として作曲された。この作品には、18世紀末にスペインで流行した3拍子系の舞曲であるボレロのリズムが使われている。このリズムは、小太鼓によって繰り返し演奏され、それによって2つの旋律が交互に現れる。2つの旋律は楽器の組合せを変えながら何度も繰り返され、曲全体が1つの長いクレシェンドで演奏される。今日では、バレエを伴わずに、オーケストラの作品として演奏されることも多い。

本題材では、曲全体を通して繰り返し演奏されるリズムと2つの旋律、音色や強弱の変化に注目しながら曲の構成の特徴に気付かせ、音楽のよさや美しさを味わわせたい。

5. 題材の評価規準

| | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---------|--|--|--|
| 題材の評価規準 | 「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴と他の芸術との関わりを理解している。 | <p>思①「ボレロ」の音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。</p> <p>思②「ボレロ」の曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> | 「ボレロ」の繰り返し演奏されるリズムと2つの旋律、音色や強弱の変化に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |
| 1時 | ○ (知識) 〈観察, ワークシート〉 | ○ 〈観察, ワークシート〉 | ↓ |
| 2時 | | ○ 〈観察, ワークシート〉 | ○ 〈観察, ワークシート〉 |

6. 指導と評価の計画 (全2時間)

| 時 | ◆ねらい ●学習内容 ・学習活動 | ○指導上の留意点 ●評価規準【評価方法】 |
|---|---|---|
| 1 | <p>◆「ボレロ」の音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <p>◆「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴と他の芸術との関わりを理解する。</p> <p>●本題材の見通しをもち、曲に関心をもつ。 ・「くるみ割り人形 (チャイコフスキー作曲)」「ロメオとジュリエット (プロコフィエフ作曲)」「ボレロ (ラヴェル作曲)」の3曲を聴き、何のために作曲された音楽なのかを考え、ワークシートに記入する。 ・3曲ともバレエのために作曲された音楽であることを知る。</p> <p>・本題材では、主に「ボレロ」を鑑賞することを通して、音楽の特徴と他の芸術との関わりについて学習することを知る。</p> <p>●「ボレロ」の音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や</p> | <p>○なるべく、生徒が知っているような音楽を選択し、音楽を聴いて感じたことについて自由に意見交換できるようにする。それらを基に、何のために作曲された音楽なのかについて考えるよう促す。</p> <p>○バレエについて簡単に説明し、3曲ともバレエのために作曲された音楽であることを確認できるようにする。</p> <p>○生徒がどのような場面で「ボレロ」を聴いたことがあるかなどについて質問し、他の芸術や生徒自身の生活とどのような関連があるかといった視点をもてるようにする。</p> |

| | | |
|---|--|--|
| | <p>雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーケストラで使われている楽器について、既習の学習を振り返る。 ・教科書p.38の2小節のリズムパターンを実際に手で打ち、感じたことを発表する。 ・リズムパターンを手で打ちながら、旋律Aと旋律Bをピアノに合わせて口ずさみ、どのような感じがするかをワークシートに記入し、意見交換する。 ・楽器の音色、リズム、旋律、強弱、構成に注目しながら「ボレロ」を通して聴き、感じ取ったことや気付いたことをワークシートに記入し、学級全体で確認する。 <p>●「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴と他の芸術との関わりを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ボレロ」がバレエでどのように表現されているのかを想像し、音楽の特徴と関連させながら考え、意見交換する。 ・バレエ「ボレロ」をダイジェストの映像資料で視聴し、音楽の特徴とバレエの表現との関わりについて気付いたことや分かったことをワークシートに記入し、発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○今までに学習した内容を復習し、オーケストラで使われている楽器について確認できるようにする。 ○実際にリズムパターンを手で打ちながら、リズムの特徴について実感を伴って理解できるようにする。 ○旋律Aと旋律Bをピアノに合わせて歌い、それぞれの旋律の特徴やどのような感じがしたかについて意見交換しながら、それぞれの特徴を理解できるようにする。 ○楽器の音色の変化、繰り返されるリズムパターン、2つの旋律の組合せ、強弱の変化、曲全体の構成に注目させるなど、生徒が知覚・感受するポイントを明確に提示して、鑑賞できるようにする。 ●思①「ボレロ」の音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。【観察、ワークシート】 ○「ボレロ」はバレエ音楽であるが、物語とは関連しないで表現されることを説明し、実際どのような舞踊で表現されているのか、音楽の特徴と関連させながら考えるようにする。 ○音楽の特徴と実際のバレエでの舞踊表現との関わりについて考え、気付いたことや分かったことを捉えられるようにする。 ●知「ボレロ」の曲想と音楽の構造との関わりや、音楽の特徴と他の芸術との関わりを理解している。【観察、ワークシート】 |
| 2 | <p>◆「ボレロ」の繰り返し演奏されるリズムと2つの旋律、音色や強弱の変化に関心をもち、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>●「ボレロ」の繰り返し演奏されるリズムと2つの旋律、音色や強弱の変化に関心をもち、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ボレロ」を通して聴き、曲想と音楽の構造 | <ul style="list-style-type: none"> ○前時に学習したことを踏まえながら、「ボレ |

との関わりや、音楽の特徴と他の芸術との関わりを根拠に、解釈したり価値を考えたりして、音楽のよさや美しさについての考えをワークシートに記入する。

- ・批評文を發表し合い、それらの内容について意見交換する。

- ・本題材で学んだことを振り返りながら、バレエを伴わずに演奏されている「ポレロ」の映像資料を鑑賞する。

口」のよさや魅力について、音楽の特徴と他の芸術とを関連付けながら、自分の考えをワークシートに記入できるようにする。

- 他者の意見を聞いて、新たに発見したことや自分の考えとは異なること、自分の批評文に生かせるようなことについてワークシートに記入し、自身の考えを深められるようにする。

●**思②**「ポレロ」の曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。【観察，ワークシート】

- オーケストラで演奏されている「ポレロ」を視聴することで、管弦楽曲としての「ポレロ」のよさや魅力を味わえるようにする。

●**態**「ポレロ」の繰り返し演奏されるリズムと2つの旋律、音色や強弱の変化に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。【観察，ワークシート】